

# 幼児の社会的生活習慣の育成について

堀 良子 (帝塚山学院大学)

領域「社会」、個人的生活習慣、社会的生活習慣、遊び

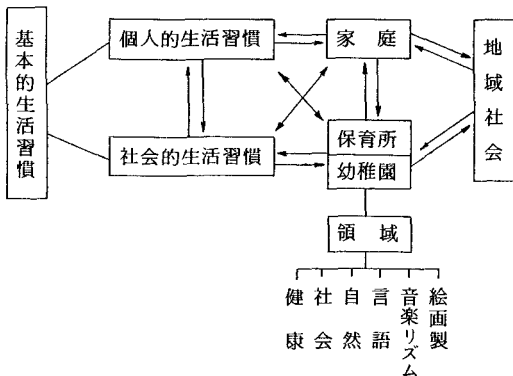
表1. 領域「社会」について

## はじめに

今日、若者の未発達について種々問題にされている。これは子どもを取り巻く環境の変化—核家族化、兄弟の数の減少、住居・生活様式など—に起因するといわれている。特に幼児の保育の拠点である家庭のあり方、親の養育態度、幼児期に体験されるべき集団保育の基本的な生活習慣の未確立などが考えられる。

集団保育の場での社会性は、家庭で行なわれる基本的な生活習慣がしっかりと身についた上ではじめて育てられるものと思われる。生活習慣は図1の如く、個人的習慣と社会的習慣の2本の柱からなる。個人的習慣は基本的には家庭で教育(しつけ)されるものである。一方、社会的習慣は対人関係・きまりを守る・公共物をたいせつにするなど、幼稚園や保育所の集団保育の場で友だちとの生活・遊びを通して習得されるものである。しかし、それぞれが単一に切り離されるのではなく、互いに有機的に関連しながら、家庭・幼稚園・保育所・地域社会の総合された環境の中で育てられるものである。

図1. 幼児期における社会性の構図



本研究では、このようなことを考えて、幼稚園教育における領域「社会」からみた、幼児の集団保育の場における社会的な生活習慣の育成についての問題を考察する。領域「社会」の内容は、基本的な生活習慣と正しい社会的態度を育成し、豊かな情操を養い、道徳性の芽ばえをつちかうようにすることを基本方針としている。具体的内容については表1に示すものである。

- |                            |   |                                     |
|----------------------------|---|-------------------------------------|
| 1. 個人生活における望ましい習慣や態度を身につける | } | 1. 身のまわりのこと<br>2. 自他の区別<br>3. 自分の意識 |
| 2. 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける | } | 1. 園での生活<br>2. 友だちとの関係<br>3. 父母と教師  |
| 3. 身近な社会の事象や興味や関心をもつ       | } | 1. 園での生活<br>2. 近隣の生活<br>3. 行事への参加   |

- 1) 調査方法・内容は梅津の研究に同じ
- 2) 本研究で取りあげる調査項目  
調査項目76項目のうち領域「社会」に関わりのある18項目を本研究の調査項目とした。
  1. 名前を呼ばれたらキチンと返事をしていましたか。—以下項目1「返事」
  2. ごあいさつ(おはよう、おやすみ、ありがとう、いただきます)がよく言えましたか。—以下項目2「あいさつ」
  3. 家の中より外で遊ぶほうが好きでしたか。—以下項目3「外で遊ぶ」
  4. 一人遊びが好きでしたか。—以下項目4「一人遊び」
  5. 同じ年齢の子と遊ぶほうが多かったですか。—以下項目5「同年齢の子」
  6. 遊具を利用する順番を守らせるように(守る)していましたか。—以下項目6「順番」
  7. 使った道具、絵本などの後片付けはしていましたか。—以下項目7「後片付け」
  8. いつも嫌がらないで保育園や幼稚園に行っていましたか。—以下項目8「嫌がらず通園」
  9. 自分のものと他人のものとの区別はできていましたか。—以下項目9「自他の区別」
  10. して良いことと、悪いことの区別はできていましたか。—以下項目10「よい悪いの区別」
  11. 遊ぶ時は必ず行き先を言って出かけましたか。—以下項目11「行き先」
  12. 先生やお母さん、友だちとの約束は守れましたか。—以下項目12「約束」
  13. 日頃役割を与えさせて(与えられて)いましたか。—以下項目13「役割」

## 結果と考察

### 1) 考察の視点と方法

前記の調査項目を次の4つの視点から、考察をすすめることにした。

- (1) 学生(女子)と親との比較
- (2) 兄弟の数による比較
- (3) 学生(男子)からみた親の養育態度からの比較
- (4) 男女による比較

考察の方法については、比較すべき対象において、「ハイ」の回答率が①両者とも高いもの、②一方が高くて、他方が低いもの、③両者ともに低いものとした。

尚、兄弟の数による比較にあたり、留意すべき2点を述べておく。

第1点は、ここでは男女の区別を考慮していないこと、第2点は、兄弟が複数の場合、その順番による区別を考慮していないことである。従って同じ3人兄弟の範囲には、長男も、三女も含まれる。

### 2) 結果の考察

#### (1) 学生(女子)と親との比較

学生と親との間に認識上の大きな違いは少ないが、総体的に親の評価のほうが高くなっている。

両者ともに「ハイ」の回答率が高い項目(資料1参照)は、項目1「返事」では、学生78.1%、親80.9%、項目2「あいさつ」では学生70.5%、親77.7%、項目5「同年齢の子」では学生63.1%、親69.3%、項目6「順番」では学生61.7%、親67.3%、項目9「自他の区別」では学生86.6%、親94.9%、項目10「よい悪いの区別」では学生81.3%、親85.3%、項目11「行き先」では学生77.9%、親84.4%の以上7項目である。項目により回答率に程度の差はみられるが、以上の項目に関する動作、行動は幼児期に習慣化されていたと、学生、親ともに判断されている。

次に、学生、親との回答率で最も大きな差があった項目(図2参照)は、項目8「嫌がらず通園」の学生64.1%、親85.3%であり、親は嫌がらず通園したと判断する者が多いのに対して学生の回答とは約20%の差がみられた。項目12「約束」についても学生67.5%に対して、親は81.2%と高く、親のほうに動作、行動の習慣化されていたと高く評価している傾向がみられる。

両者ともに「ハイ」の回答率が低い項目(図2参照)は、項目3「外で遊ぶ」では学生53.1%、親57.7%とやや低い回答である。項目7「後片付け」では学生44.0%、親43.1%、項目13「役割」では学生30.6%、親33.0%と低く、これらの2項目については習慣化が十分でない判断したい。項目4「一人遊び」は学生26.7%、親27.4%となっている。この項目についてはむしろ「ハイ」の回答率が低いほうが望ましいのである。人間は生まれながらにして対人的関係、社会的環境の中に身を置くことにより、はじめて成長するよう運命づけられている。項目3、4にみら

図2. 学生と親との比較

一両者の「ハイ」の回答率に大きく差のある項目及び回答率が低い項目一

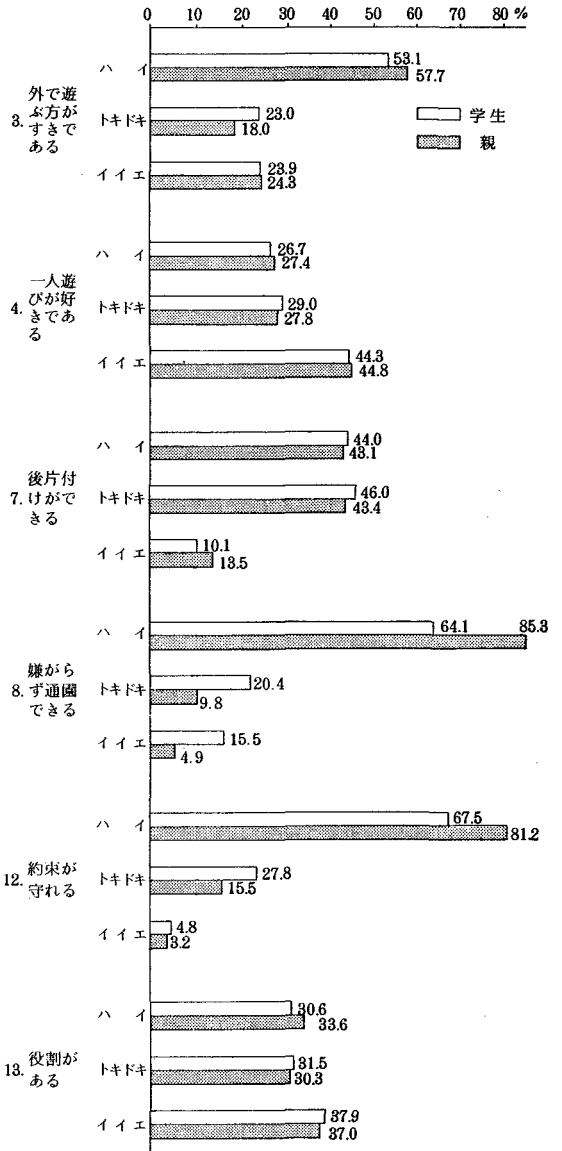
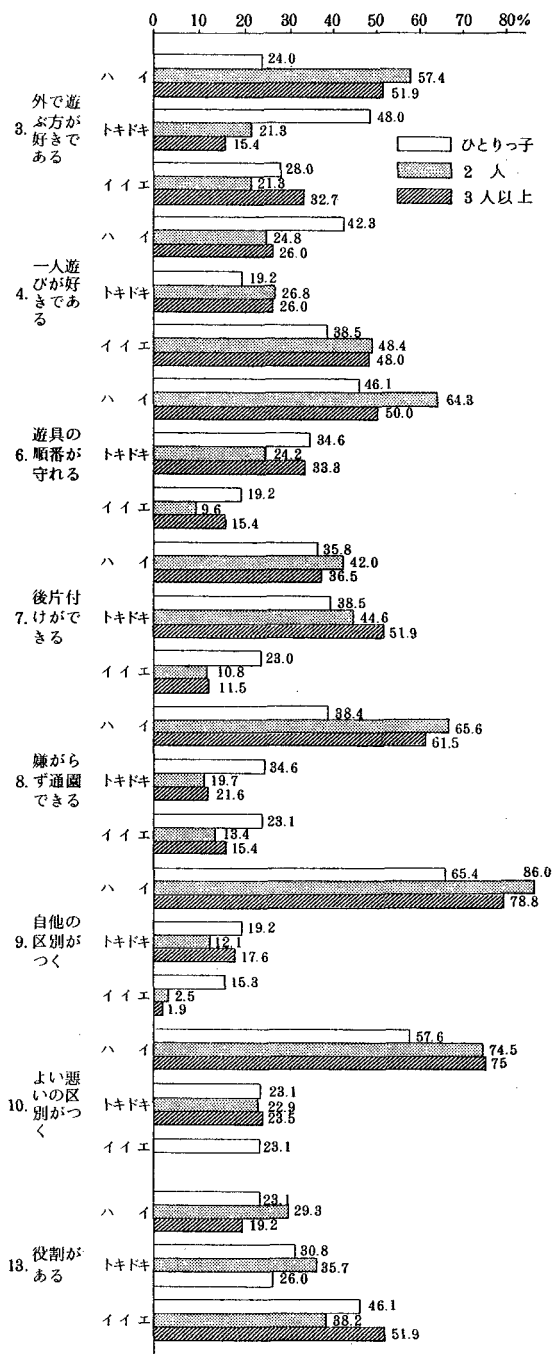


図3. 兄弟の数による比較

一兄弟の数での「ハイ」の回答率に差のある項目及び回答率が低い項目一



れるように、外で遊ぶより家の中を、一人遊びを好んでいた傾向がみられることに問題があると思われる。項目13の役割についても、役割を持っていたのが全体の3分の1である。子どもは自我の芽ばえとともに、自分の存在を回りに認めさせるための行動をする。「役割が与えられる」ことは、子どもの存在が認められることであり、行動に責任を持たされることである。それは自立の芽を育てることになる。しかし、調査結果からはこれらについての配慮が十分でなかったことが示されている。動作、行動の習慣化は子どもの発達の時期と、それらをくり返し練習することが重要と考える。

(2) 兄弟の数による比較

兄弟の数に関わりなく「ハイ」が高い回答率で同じような傾向を示した項目(資料2参照)は、項目1「返事」では1人69.2%、2人67.5%、3人以上66.7%、項目5「同年齢の子」では1人57.7%、2人61.7%、3人以上61.5%、項目11「行き先」で1人73.7%、2人76.4%、3人以上73.0%の3項目と、やや低くなるが項目12「約束」の1人57.6%、2人59.2%、3人以上59.6%の項目である。以上の項目についてはよい傾向であると判断したい。

3者間の回答に差が示されたのはひとりっ子である(図3参照)。項目3「外で遊ぶ」24.0%、項目4「一人遊び」42.3%、項目8「嫌がらず通園」38.4%、項目9「自他の区別」65.4%、項目10「よい悪いの区別」57.6%の5項目に、2人、3人以上の兄弟より約15~30%の低い回答率である。一方、2人兄弟では項目3「外で遊ぶ」57.4%、項目6「順番」64.3%、項目7「後片付け」42.0%、項目8「嫌がらず通園」65.6%、項目9「自他の区別」86.0%、項目13「役割」29.3%の以上6項目(図2参照)に他の2者より高い回答率でよい傾向が示されている。

次に、「ハイ」の回答率が3者ともに低い項目(図2参照)は、項目13「役割」の1人23.1%、2人29.3%、3人以上19.2%が最も低く、続いて項目7「後片付け」で1人35.8%、2人42.0%、3人以上36.5%、項目4「一人遊び」で1人42.3%、2人24.8%、3人以上26.0%の項目である。項目4については「ハイ」の回答率が低いほうが望ましいことから、他の3項目との同一判断はできない。

以上の結果からひとりっ子に問題が多く示された。先にも述べたように人間は人との関わりの中で成長してゆく。幼児の社会的環境の基本的集団は家庭である。この生活の拠点としての家庭で、両親や兄弟との相互の関わりの中で具体的行動を通して体験し、反復練習により生活の基本的習慣として習慣づけられるのである。兄弟との関わりのないひとりっ子に対して、親による生活体験の場の拡大が必要と思われる。3人以上の兄弟が、2人兄弟よりも習慣化が低いことについても親の養育態度の問題として考えたい。

(3) 学生(男子)からみた親の養育態度からの比較

M大107人のうち、親の養育態度が保護的とした45人(42.1%)と放任的とした39人(36.4%)の両タイプによる比較である。

両タイプともに、「ハイ」が高い回答率であった項目(資料3参照)は、項目1「返事」で保護的82.2%、放任的74.4%、項目2「あいさつ」で保護的60.0%、放任的59.0%、項目3「外で遊ぶ」で保護的68.9%、放任的79.5%、項目5「同年齢の子」で保護的73.3%、放任的71.8%、項目9「自他の区別」で保護的82.2%、放任的92.3%、項目10「よい悪いの区別」で保護的80.0%、放任的79.5%、項目12「約束」で保護的62.2%、放任的74.4%の7項目である。項目により約10%の差もみられるが、両タイプとも60%をこえることから、概ねよい傾向で習慣化されていると判断したい。

しかし、両タイプ間に差があり、やや低い回答率であった項目(図4参照)は、項目11「行き先」の保護的68.9%に対して放任的43.6%、項目8「嫌がらず通園」で保護的53.3%、放任的48.7%の2項目で、前者では25%、後者では12%の差が示された。この2項目には両タイプの養育態度の違いが示されているように思える。

両タイプとに「ハイ」の回答率が低い項目(図4参照)は、項目4「一人遊び」で保護的22.2%、放任的12.8%であるが、この項目については低いほど望ましい傾向といえるが、項目6「順番」では保護的51.1%、放任的48.7%、項目7「後片付け」では保護的31.1%、放任的38.5%、項目13「役割」では保護的31.1%、放任的30.8%の3項目では両タイプ間の差もほとんどみられず、習慣化の低さを示している。

以上の結果から親の養育態度による著しい差は大きくみられなかったが、保護的タイプにやや習慣化の低さが示されている。

(4) 男女による比較

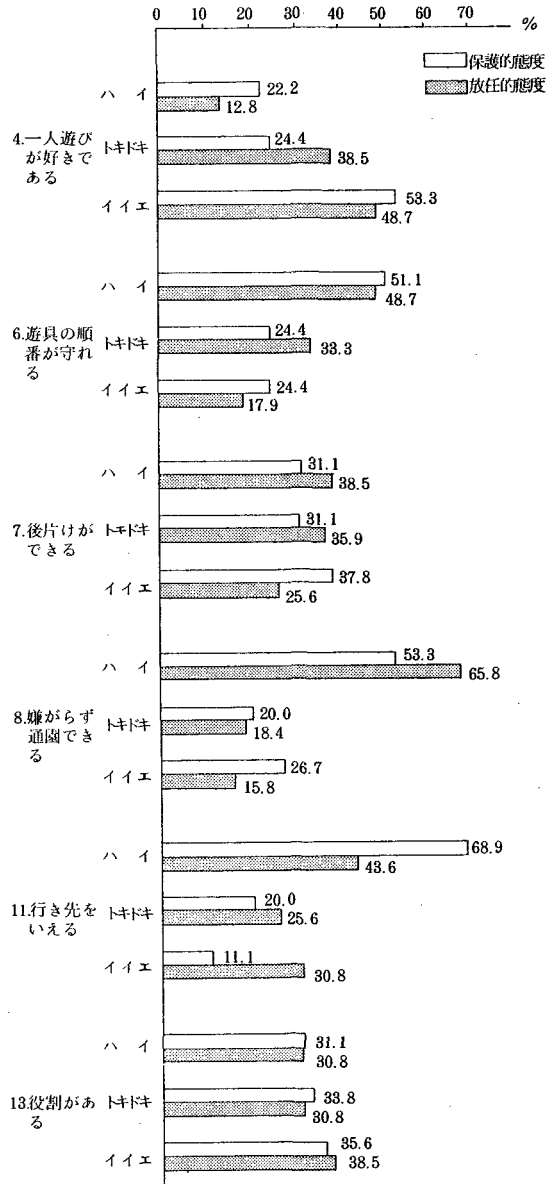
男女ともに「ハイ」が高い回答率を示している項目(資料4参照)は、項目1「返事」で男77.8%、女78.1%、項目9「自他の区別」で男88.9%、女86.6%、項目10「よい悪いの区別」で男80.6%、女81.3%が80%以上である。やや低いに項目5「同年齢の子」男68.5%、女63.1%、項目8「嫌がらず通園」男60.2%、女64.1%、項目12「約束」で男67.6%、女67.5%の3項目がある。

両者間に大きな違いが示された項目(図5参照)は、項目2「あいさつ」で男57.4%、女70.5%、項目3「外で遊ぶ」で男73.1%、女53.1%、項目6「順番」で男49.1%、女61.7%、項目11「行き先」で男57.4%、女77.9%の4項目で、「外で遊ぶ」以外は女に12~20%の高い回答率を示している。これらの項目から男女の性差が習慣化へも影響しているように思われる。

一方、「ハイ」の回答率が低い項目(図5参照)は、項目4「一人遊び」男20.6%、女26.7%、項目7「後片付

図4. 学生からみた親の養育態度からの比較

—両者の「ハイ」の回答率に差のある項目及び回答率が低い項目—



け」で男34.3%、女44.0%、項目13「役割」で男34.4% 女30.6%となっている。項目4については、回答率が低いほど望ましいのであるが、両者とも全体の4分の1に近いものが「一人遊びが好き」としている。このように友達を必要としない、友達と遊ぶことを好まない子どもが将来大人になった時、どのような影響もたらされるのか考えさせられる回答である。「後片付け」は身のまわりのこと、自分のこととして、又次の動作、行動への準備となる基本的な習慣である、にも拘らず習慣化が十分にされていないことについては、他の項目とともに、今後の課題としたい。

以上を要約すると、次のようになる。

- 1) 社会的生活の習慣化について、学生と親との間に認識上の大きな差は少ないが、総体的に親の習慣化に対する評価のほうが高くなっている。
- 2) 兄弟の数からみた習慣化については、ひとりっ子に低く、集団生活への適応も低い。3人以上の兄弟に特によい方向への傾向はあまりみられず、2人兄弟に習慣化のよい方向の傾向がみられた。
- 3) 親の養育態度からみた保護的タイプ、放任的タイプとの間に差はあまりみられず、保護的タイプにやや習慣化の低さが示された。
- 4) 男女による比較では、女子に習慣化がやや高くみられた。

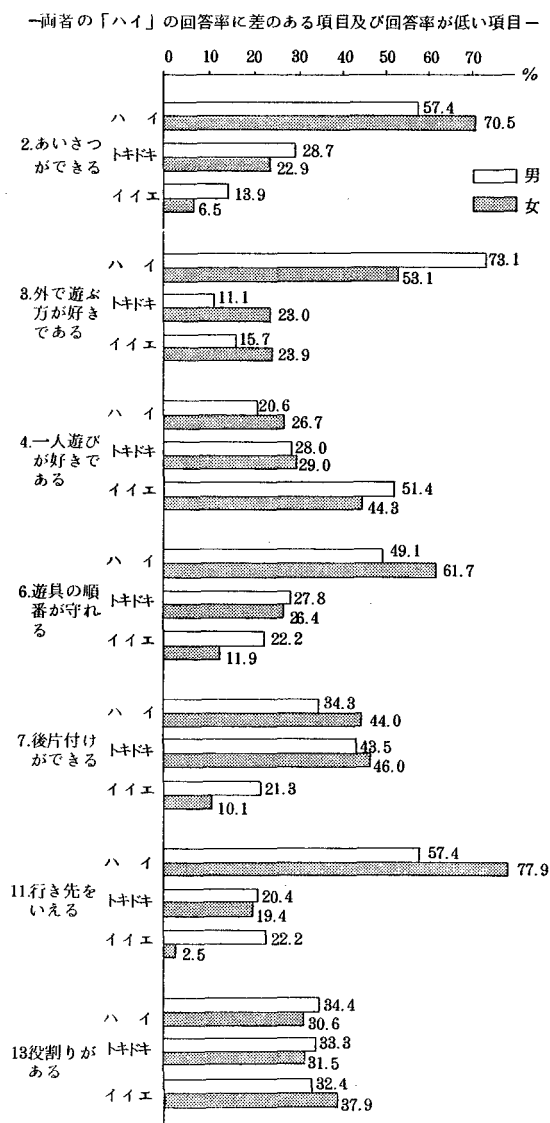
なお、最後に幼児の社会的生活習慣の育成について指導の手だてと思われることがらに触れると次のようなことがあげられる。

- 1) 家庭における基本的な生活習慣化は、子どもの自律性をそなわれないように、まず条件反射的な反復練習と母親のモデリングが何よりも望まれる。
- 2) 1)の条件をベースにして集団保育の場では、人との関わりを育てる場として、友達との遊びの中で豊かな体験や活動ができるような配慮が望まれる。
- 3) 幼児は自ずからの環境体験を、自己の生活に都合よく改善することはできない。従って環境改善は大人に委ねられている。

#### 参 考 文 献

- 1) 文部省「幼稚園教育指導書」一般編 1968年
- 2) 文部省「幼稚園教育指導書」領域編，社会 1968年
- 3) 岡田正章・植松治子・野間郁夫編「幼児社会教育法」東京書籍出版 昭和52年
- 4) 藤永保「幼児の心理と教育」有斐閣 昭和60年
- 5) 藤永保「幼児の発達と教育」有斐閣新書 1984年
- 6) 和田典子「子育てと家庭の役割」国民文庫 1984年

図5. 男女による比較



資料1. 学生と親との比較(%)

項目	回答 対象		M 短 大			S 短 大				
			ハイ	トキドキ	イイエ	ハイ	トキドキ	イイエ		
	ハイ	トキドキ	イイエ	ハイ	トキドキ	イイエ	ハイ	トキドキ	イイエ	
1. 返事ができる	学生	78.1	17.2	4.9	80.7	16.8	1.3	67.5	26.8	5.6
	親	80.9	14.1	5.1	91.7	4.2	3.1	74.2	20.1	6.0
2. あいさつができる	学生	70.5	22.9	6.5	76.5	17.6	4.2	61.8	29.2	9.0
	親	77.7	18.2	4.2	84.4	13.5	2.1	68.1	20.0	4.9
3. 外で遊ぶほうが好きである	学生	53.1	23.0	23.9	54.3	23.3	22.4	52.6	22.8	24.6
	親	57.7	18.0	24.3	62.1	13.7	4.2	55.4	20.3	24.3
4. 一人遊びが好きである	学生	26.7	29.0	44.3	25.9	35.3	38.8	27.1	25.8	47.2
	親	27.4	27.8	44.8	21.1	33.7	5.3	30.9	24.6	44.6
5. 同年齢の子と遊ぶ傾向にある	学生	63.1	16.6	20.3	66.9	15.3	17.8	61.2	17.2	21.6
	親	69.3	19.0	11.7	75.8	16.8	7.4	65.9	20.1	14.0
6. 遊具の順番が守れる	学生	61.7	26.4	11.9	62.2	24.4	10.9	59.1	27.2	11.9
	親	67.3	14.3	18.4	67.7	12.5	6.7	62.6	14.3	18.1
7. 後片付けができる	学生	44.0	46.0	10.1	48.7	44.5	5.0	40.5	45.5	14.0
	親	43.1	43.4	13.5	39.6	43.8	5.6	44.0	42.3	12.1
8. 嫌がらず通園ができる	学生	64.1	20.4	15.5	65.5	17.6	16.0	61.7	21.7	14.9
	親	85.3	9.8	4.9	87.2	10.4	2.3	80.0	9.3	6.0
9. 自他の区別がつく	学生	86.6	10.5	2.8	93.3	3.4	0.8	82.1	14.0	3.8
	親	94.9	4.0	1.1	94.8	4.2	1.0	92.9	3.8	1.1
10. よい悪いの区別がつく	学生	81.3	16.4	2.3	94.1	4.2	1.7	72.8	22.1	2.6
	親	85.3	13.7	1.1	94.8	5.2	0	80.2	18.1	1.6
11. 行き先きをいえる	学生	77.9	19.4	2.5	82.4	16.0	1.7	75.3	21.3	3.0
	親	84.4	12.9	2.7	78.1	8.3	3.1	80.7	14.3	2.2
12. 約束が守れる	学生	67.5	27.8	4.8	76.5	16.0	5.9	57.4	35.3	3.8
	親	81.2	15.5	3.2	86.5	8.3	5.2	78.0	19.2	2.2
13. 役割がある	学生	30.6	31.5	37.9	40.0	31.9	26.9	26.4	32.8	42.1
	親	33.0	30.0	37.0	35.4	26.0	37.5	30.8	31.3	35.7

資料2. 兄弟の数による比較(%)

項目	対象 回答	ひとりっ子			2 人			3人以上		
		ハイ	トキドキ	イイエ	ハイ	トキドキ	イイエ	ハイ	トキドキ	イイエ
1	返事ができる	69.2	23.0	7.7	67.5	27.2	5.2	66.7	27.5	5.9
2	あいさつができる	69.2	19.2	11.5	65.0	24.8	16.6	46.2	46.2	7.7
3	外で遊ぶほうが好きである	24.0	48.0	28.0	57.4	21.3	21.3	51.9	15.4	32.7
4	一人遊びが好きである	42.3	19.2	38.5	24.8	26.8	48.4	26.0	26.0	48.0
5	同年齢の子と遊ぶ傾向にある	57.7	26.9	15.4	61.7	17.5	20.8	61.5	11.5	26.9
6	遊具の順番が守れる	46.1	34.6	19.2	64.3	24.2	9.6	50.0	33.3	15.4
7	後片付けができる	35.8	38.5	23.0	42.0	44.6	10.8	36.5	51.9	11.5
8	嫌がらず通園ができる	38.4	34.6	23.1	65.6	19.7	13.4	61.5	21.6	15.4
9	自他の区別がつく	65.4	19.2	15.3	86.0	12.1	2.5	78.8	17.6	1.9
10	よい悪いの区別がつく	57.6	15.4	23.1	74.5	22.9	0	75.0	23.5	0
11	行き先をいえる	73.7	23.1	33.8	76.4	21.0	2.5	73.0	21.6	3.8
12	約束が守れる	57.6	38.8	11.5	59.2	35.7	3.2	59.6	37.3	51.9
13	役割がある	23.1	30.8	46.1	29.3	35.7	38.2	19.2	26.0	1.9

資料3. 学生からみた親の教育態度からの比較(%)  
保-保護的 放-放任的

項目	回答		ハイ	トキドキ	イイエ
	返事ができる	対象			
1	返事ができる	保	82.2	13.3	4.4
		放	74.4	15.4	10.3
2	あいさつができる	保	60.0	24.4	15.6
		放	59.0	30.8	10.3
3	外で遊ぶ方が好きである	保	68.9	15.6	15.6
		放	79.5	7.6	12.8
4	一人遊びが好きである	保	22.2	24.4	53.3
		放	12.8	38.5	48.7
5	同年齢の子と遊ぶ傾向にある	保	73.3	13.3	13.3
		放	71.8	38.4	10.3
6	遊具の順番が守られる	保	51.1	24.4	24.4
		放	48.7	33.3	17.9
7	後片付けができる	保	31.1	31.1	37.8
		放	38.5	35.9	25.6
8	嫌がらず通園ができる	保	53.3	20.0	26.7
		放	65.8	18.4	15.8
9	自他の区別がつく	保	82.2	8.9	8.9
		放	92.3	5.1	2.6
10	よい悪いの区別がつく	保	80.0	11.9	8.9
		放	79.5	12.8	7.6
11	行き先をいえる	保	68.9	20.0	11.1
		放	43.6	25.6	30.8
12	約束を守れる	保	62.2	24.4	13.3
		放	74.4	20.5	5.1
13	役割がある	保	31.1	33.3	35.6
		放	30.8	30.8	38.5

資料4. 男女による比較(%)

項目	回答		ハイ	トキドキ	イイエ
	返事ができる	対象			
1	返事ができる	男	77.8	15.7	6.5
		女	78.1	17.2	4.9
2	あいさつができる	男	57.4	28.7	13.9
		女	70.5	22.9	6.5
3	外で遊ぶ方が好きである	男	73.1	11.1	15.7
		女	53.1	23.0	23.9
4	一人遊びが好きである	男	20.6	28.0	51.4
		女	26.7	29.0	44.3
5	同年齢の子と遊ぶ傾向にある	男	68.5	17.6	13.9
		女	63.1	16.6	20.3
6	遊具の順番が守られる	男	49.1	27.8	22.2
		女	61.7	26.4	11.9
7	後片付けができる	男	34.3	43.5	21.3
		女	44.0	46.0	10.1
8	嫌がらず通園ができる	男	60.2	19.4	19.4
		女	64.1	20.4	15.5
9	自他の区別がつく	男	88.9	6.5	4.6
		女	86.6	10.5	2.8
10	よい悪いの区別がつく	男	80.6	10.2	8.3
		女	81.3	16.4	2.3
11	行き先をいえる	男	57.4	20.4	22.2
		女	77.9	19.4	2.5
12	約束を守れる	男	67.6	24.0	17.6
		女	67.5	27.8	4.8
13	役割がある	男	34.4	33.3	32.4
		女	30.6	31.5	37.9